

# Japonism Victoria Archives

A touch of west-coast Japanese culture

www.jccovictoria.ca



Archive No.: HID100301  
English Title: Ross Bay Cemetery and the Nikkei (Japanese Canadian) Community, Part III  
Japanese Title: ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part III>  
Author: Vincent A. The editor-in-chief  
Issue: *Japonism Victoria*, vol.5 no. 3, March 1, 2011  
Publisher: Japanese Canadian Community Organization of Victoria  
Location: www.jccovictoria.ca/archives/hid100301b.pdf

## HISTORY/ART/HUMANS [第4回]

### ◆ロスベイ墓地と日系コミュニティ <Part III>

Vincent A. @Japonism Victoria

日本人移民の排斥についてもう少しお話しします。一般的に移民が排斥される理由としては、前回申し上げたように移民人口の急増が第一に挙げられます。カナダではまず中国人移民が急増して排斥の対象となりました。初期日本人移民の場合も、日本からの移民が本格化した明治 20 年代からわずか 10 年後の明治 30 年代には、カナダ社会に軋轢(あつれき)を生じ始めていたようです。しかし、日本人移民の場合には移民人口の急増のほかに排斥を招いた別の要因がありました。それは日本人移民が極めて有能であったことと、著しく勤勉であったことです。

まず有能さについては日本人の高い教育水準が挙げられます。江戸時代の日本では侍(さむらい)階級には藩校(はんこう)と呼ばれる教育施設が各藩に設置され、武家の子弟の教育が行われていましたが、町人階級にも寺子屋や手習指南所(てならいなんしよ)と呼ばれる私塾がありました。この寺子屋・手習指南所はまず江戸や上方など都市部を中心に展開され、その後、徐々に農村・漁村にも広がり、庶民階級の教育を担っていました。教育内容は「読み、書き、算盤(そろばん)」といわれるように国語と算数の基礎知識の教育が中心ですが、それだけに留まらず、人名や書簡の作成法、日本地理など、実生活に必要とされる知識や技術も含まれていました。日本では明治 5 年(1872 年)に学制(学校制度)が制定されましたが、この学校教育制度が比較的スムーズに国民に受け入れられた背景には、寺子屋・手習指南所などの私塾によって庶民の間にも基礎的な学力がすでに形成されていたことがあります。それを示すひとつの指標が識字率で、明治初期の段階において日本の識字率はすでに世界最高の水準にありました。

日本人移民よりも前にカナダに移住した中国人労働者と比較すると、日本人移民の教育水準・知的水準は相当に高く、場合によっては白人労働者のそれよりも高かったかもしれません。日本人移民の教育水準の高さが仕事に対する理解力の速さ、正確さ、完成度の高さなどにつながったであろうことは想像に難くありません。また漁夫移民の場合は日本で培ってきた漁法の完成度の高さが白人漁夫のそれをはるかに上まわっていたという事実も伝えられています。

しかしながら、日本人のこのような有能さは、日本人移民を単なる肉体労働者として受け入れたカナダ白人社会には逆に脅威として映り、日本人は手強(てごわい)相手だという印象が白人社会に定着していったようです。そして明治 28 年(1895 年)の日清戦争勝利、続く明治 39 年(1906 年)の日露戦争勝利によって、この印象は決定的なものとなったはずで

また、日本人移民の教育水準の高さは、カナダで家庭を構え子を持つようになると、子どもに対する教育の熱心さとして表れます。子を学校や教会へ通わせて知識・理性、宗教心を育もうとしますが、それはカナダ白人社会にとってあまり好ましくありません。なぜなら、下層労働者の子が教育を受けて育ってしまうと低賃金の下層労働者が再生産されないだけでなく、彼らが社会上層に入っていくことで白人の職を奪うことになりかねないからです。

もうひとつの勤勉さですが、そもそも日本人は国民性として勤勉で、低賃金でもよく働く民族ですが、カナダ日系史における初期日本人移民の勤勉さは良い面ばかりではありません。それは権利意識の希薄さの裏返しでもあるからです。

日本人が毎週末に休むようになったのは比較的最近のことです。太平洋戦争敗戦により民主国家が形成されるまで、日本人には労働者としての権利意識が非常に希薄で、毎週日曜に仕事を休むという習慣がありませんでした。休みは毎月1日と15日のみというのが普通で、これに盆と暮れ(正月)に数日間の休みがあるという程度でした。カナダに移住した日本人もしっかり働いたはずですが、低賃金でもよく働くという元来の国民性に加え、権利意識の希薄な日本人労働者は労働組合に参加せず、白人労働者がストライキを打つときにも日本人は働きましたので、経営者には好都合であっても、白人労働者からは“労働者の敵”とみなされ嫌われていったようです。

このように日本人の持つ有能さと勤勉さが、一方では日本人移民の信用・信頼を高めるポジティブな要素として働き、他方では日本人移民排斥を招くネガティブな要素として働いたと思われる。日本人移民の急増とこのような日本人の特性がカナダにおける日本人移民の“居心地の悪さ”を徐々に強めていき、最終的に、日本がカナダ・英国と敵対関係に陥ることで、日本人の完全排斥に至ったということではないでしょうか。

さて、本題のロスベイ墓地の話に戻りましょう。ロスベイ墓地の日本人の墓の有り様(ありよう)にはカナダ日系の歴史が凝縮されています。これまでに述べたように、初期日本人移民にとってビクトリアがカナダ移住の起点であり、多くの移民先駆者たちがこのロスベイに眠っていること、また親の墓がなく孤立した子どもの墓が多いことなどがそうですが、それに加えて、埋葬者数の変化にも日系の歴史が色濃く反映されています。次の図をご覧ください。

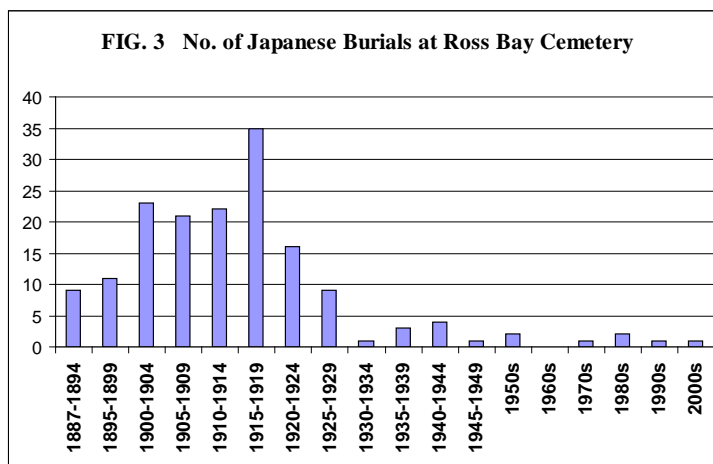


FIG. 3はロスベイ墓地における一定期間毎の日本人埋葬者(新規埋葬者)数を示すグラフです。初期の頃は埋葬者数が少ないことからグラフではまず1887年から8年間の埋葬者数を、つぎに1895年以降1949年までは5年間毎の埋葬者数を、そして1950年以降は各10年間毎の埋葬者数を示しています。墓標の中には当初は別の場所に埋葬され最近移設されたものもありますが、数が少なく全体的特徴に影響を与えないので、カウントに含めています(\*)。

さて、明治20年代(1880年代後半)から日本人のカナダ移住が本格化しましたが、ロスベイ墓地でも1890年代から1900年代にかけて日本人埋葬者が増加し始めます。その後、1914年頃まではほぼ一定数の埋葬者がありましたが、1915~1919年の5年間は埋葬者が急増しています。これは1918年から翌1919年にかけて世界的に大流行したスペイン風邪による死者が日本人移民にも多く発生したことによると思われます。そして、グラフに示されるように1930年以後、埋葬者が激減することとなりました。

その直前の1928年には日本人移民の数量的制限に関する日加政府間の合意であるルミュー協定(1907年発効)が改定されました。この改訂によって新規移民が著しく制限され、以後、日本人移民数が激減したといわれています。また1931年には満州事変が、1937年には廬溝橋(ろこうきょう)事件が起き、日英関係・日加関係が悪化します。そして最終的に太平洋戦争の勃発(ぼっぱつ)により、1942年にカナダ太平洋岸の日本人・日系人が内陸部へ強制移住させられました。

1942年の強制移住に先立つ1930年代からロスベイ墓地での日本人埋葬者数が減少していることから、ルミュー協定による移民制限や迫害・排斥などによってビクトリアの日本人移民がすでに30年代から減少していたのではないかと考えられますが、詳しいことは歴史専門家の方々の判断に委ねたいと思います。

\*1: 現段階で判明している日本人埋葬者総数は162名で、このうち、1942年の強制移住前の埋葬者数は154名です。このほかに埋葬者数不明のOriental Homeの墓標の下に数名の日本人が埋葬されていると思われます。

本稿 Part I～Part III を記すに当たり参考とした主な文献は以下の通りです。文中で逐次引用して参りませんでしたが、ここに記して著者の方々に對する謝辞とさせていただきます。

Douglas Francis・木村和夫(編)「カナダの地域と民族 —— 歴史的アプローチ」同文館 1993  
飯野正子「日系カナダ人の歴史」東京大学出版会 1997  
南川文里『『日系アメリカ人』の歴史社会学 —— エスニシティ, 人種, ナショナリズム』彩流社 2007  
村川庸子「境界線上の市民権 —— 日米戦争と日系アメリカ人」お茶の水書房 2007  
Roy Miki & Cassandra Kobayashi “Justice In Our Time: The Japanese Canadian Redress Settlement” Talonbooks, 1991  
Roy Miki & Cassandra Kobayashi「正された歴史 —— 日系カナダ人への謝罪と補償」つむぎ出版 1995  
高村宏子「北米マイノリティと市民権 —— 第一次大戦における日系人, 女性, 先住民」ミネルヴァ書房 2009  
米山裕・河原典史(編)「日系人の経験と国際移動」人文書院 2007  
吉田忠雄「カナダ日系移民の軌跡 —— 移民の歴史から問い直す国家の意味」人間の科学社 2003

Copyright:

©2010 Japanese Canadian Community Organization of Victoria

All rights reserved. Reproduction of any part of the article in any form without our written consent will be infringement on our copyright.